

神さまのおはなし9月一年中児



シスター木田

学年ごとの「神さまのお話 9月」

年中児の内容を紹介します。

今日は、わたしのことをお話したいと思います。シスターが、幼稚園でクラスの先生をしていた時のお話です。ある日、とてもお天気が良く、みんなとお散歩に行くことにし、近くの公園に出かけました。行く時は楽しくて、みんなで

♪歩こう、歩こうわたしは元気、歩くの大好きどんどん行こう♪

と元気いっぱいに出かけました。さあ、公園に到着。大好きな滑り台も、ブランコもあります。砂場もありました。砂場で山を作ったり、それをトンネルにしたりして遊び、楽しくて楽しくて時間がどどんと過ぎ行き、「今何時かな?」と時計を見ると、なんと、あと少しでお弁当の時間です。シスターは、「どうしよう、急がなくっちゃ!」と思い、少し怖い顔になって「みんな、時間がないから急いで帰りましょう。」と話し、行く時は笑顔で♪歩こう、歩こう♪と歌っていたのに、帰りはどどんと早歩きをしていきました。はじめはみんながちゃんとして来れているかなと後ろを見ながら歩いていましたが、なにしろ急いでいましたから、どどんと早くなっていきました。だいぶ歩いていると後ろから「シスター!シスター!」と声が

聞こえます。「あれっ!」と思い振り返ると、子どもたちの列が続いていますが、そこから少し離れたところから声がします。離れた所にいたのはあつし君でした。あつし君は、クラスの中で身体が小さく、歩くのがゆっくりな子でした。私が早く歩くのに途中からついて来れなくなっていたのでしょう。けれど私を呼んでいたのは、あつし君ではなかったのです。あつし君の隣りにいたひかりちゃんという女の子でした。列から離れて遅くなっているあつし君のそばにいて、一緒に歩いてくれていたのです。そしてみんなから離れてしまったので私を呼んだのでした。

シスターはその時、自分のことがとてもはずかしくなりました。そしてひかりちゃんのしてくれたことがすばらしいと思ったのです。先生の私が急いでしまい、おともだちに気づかずにいたのに、ひかりちゃんはあつし君のそばを離れなかったのです。シスターはイエスさまのことばを思い出しました。「いちばん困っている人にしてくれたことは、わたしにしてくれたことなんだよ。」(聖書)

みなさんが一番困っている時、誰かがそばで助けてくれたらどんな気持ちでしょう。

一人ひとりの心の中にいつもイエスさまがおられます。だからひかりちゃんのように、一番困っている人のためにお手伝いすることができるのです。イエスさまといっしょに、一番困っている人のためにお手伝いをする人になってほしい、これがシスターからの願いです。